

# 労働図書館新着情報

## 今月の図書紹介

<p>①波頭亮著『AIとBIはいかに人間を変えるのか』幻冬舎 (262頁, B6判)</p> <p>著者は、最近話題に上る人工知能(AI)と最低限所得保障(ベーシック・インカム:BI)がどちらも現在の世の中を根底から覆す可能性を持っていると主張する。AIによる最大のインパクトは「知的労働の価値の暴落」と「感情労働の価値の向上」。AIは経理や単純な情報処理作業と、弁護士や金融トレーダーなど高額報酬を得ている知的プロフェッショナルとの両面から代替されていく一方、医療やカウンセラーなどは代わることが難しいと説く。BIに関しては、従来の社会保障制度と比較して簡素でコストが小さいなど制度的な長所や経済的メリットで優れた点が多いと指摘。「働かざる者、食うべからず」の規範が「働かなくても、食ってよし」にひっくり返る可能性も見通す。</p>	<p>③阿部正浩他編『多様化する日本人の働き方』慶応義塾大学出版会 (xi+266頁, A5判)</p> <p>少子高齢化に伴う人手不足が深刻化するなか、本書は「女性と高齢者の労働力にかつてないほど注目が集まっている」と指摘。人口減が進んでも、労働力率が低い女性や高齢者が働けば必要な労働力を確保できるとみる。しかし、日本的雇用慣行のある日本企業で働く際、正規雇用者には長時間労働や画一的で柔軟性の低い勤務体制、転勤を伴う配置転換といった働き方を余儀なくされることが多いため、女性や高齢者の希望する働き方は一致しにくい。本書では非正規雇用者や女性、高齢者の働き方に焦点を当て、①ダイバーシティ経営は日本の労働市場で実せんされているのか②実せんするためには何を改善すべきなのか——などについて大規模パネルデータを活用して分析。</p>
<p>②赤川学著『少子化問題の社会学』弘文堂 (171頁, B6判)</p> <p>著者は少子化問題にはタブーが多すぎるとし、「現実はどうなのか?」「今後も続く人口減少社会はどのようになるのか?」を構想することが必要だと説く。様々な統計・分析を用いて、実際これまで日本で行われてきた仕事と子育ての両立支援、ワーク・ライフ・バランス、長時間労働の抑制などの働き方改革という対策が効果を上げてきたかを社会学の手法で検証。その結果、これらの少子化対策が「結婚や育児への期待水準を高めるばかりで、子供を増やすことにつながっていない」との見方を示す。出生率の低下に寄与する要因としては、9割が非婚者の増加であるという研究を紹介。少子化対策としての実効性を高める正の循環として「雇用と収入の安定」を指摘する。</p>	<p>④玄田有史著『雇用は契約—雰囲気には負けない働き方』筑摩書房 (251頁, B6判)</p> <p>著者は「いまや正社員であれ非正社員であれ、雇用は契約という原点を踏まえる必要がある」と強調し、会社を信頼していればOKという時代は終わった、と述べる。本書は契約期間を軸に、多様化が進む現代日本の雇用の状況を分析。そのうえで、例えば雇用契約期間が不明な非正社員は、年収や賃金が低だけでなく、契約更新の可能性も明らかにされず、雇用保険加入の有無もわからないなど、あらゆる面で不利な労働基準におかれていると指摘する。人手不足が深刻化するなか、従来の期間の定めのない労働者にとどまらず、今後は一定期間のプロジェクテ遂行のための高度かつ専門的な業務を担う雇用の普及に期待を寄せるなど働き方の現状の理解を直しを提唱している。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

## 主な受け入れ図書

(2018年3—4月労働図書館受け入れ)

- ⑤内山力著『ワーキング・イノベーション』産業能率大学出版部 (xxiii+428頁, A5判)
- ⑥中村二郎他著『日本の介護』有斐閣 (viii+244頁, A5判)
- ⑦笹山尚人著『ブラック職場』光文社 (241頁, 新書判)
- ⑧鄭庭雲著『派遣労働契約法の試み』日本評論社 (xxi+350頁, A5判)
- ⑨常盤正臣著『知的障害者雇用を成功させる8つのポイント』ぶどう社 (176頁, A5判)
- ⑩森下之博著『中国賃金決定法の構造』早稲田大学出版部 (xii+316頁, A5判)
- ⑪山口俊一著『同一労働同一賃金で、給料の上がる人・下がる人』中央経済社 (iv+v+211頁, B6判)
- ⑫水町勇一郎著『同一労働同一賃金』のすべて』有斐閣 (vi+224頁, A5判)
- ⑬長尾博著『多様化する「キャリア」をめぐる心理臨床からのアプローチ』ミネルヴァ書房 (ix+200+21頁, B6判)
- ⑭野口功一著『シェアリングエコノミーまるわかり』日本経済新聞出版社 (191頁, B40判)

### 労働図書館 <http://www.jil.go.jp/lib/index.html>

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書138,404冊、洋書44,325冊、和洋の製本雑誌25,759冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(266種)、洋雑誌(142種)、紀要(507種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特に国際労働機関(ILO)総会の議事録や経済協力開発機構(OECD)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23  
 開館時間: 9:30 ~ 17:00  
 休館日: 土曜日・日曜日・国民の祝日・年末年始(12月28日~1月4日)、その他  
 電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659  
 利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです  
 ※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください  
 レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています

